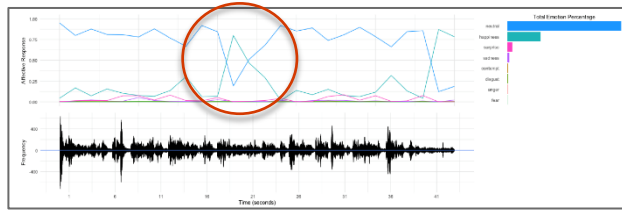


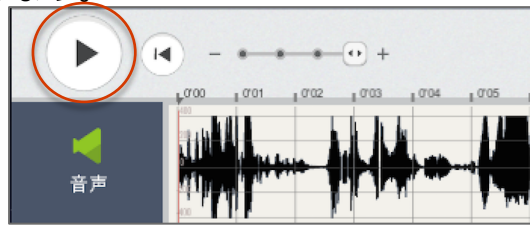
エモーションリーダー レポートの読み方

基本的な使い方

1. グラフの中で大きな感情変化があるところに注目しましょう。



2. 感情変化が大きかったところで何が話されていたのかをオーディオを再生し確認しましょう。



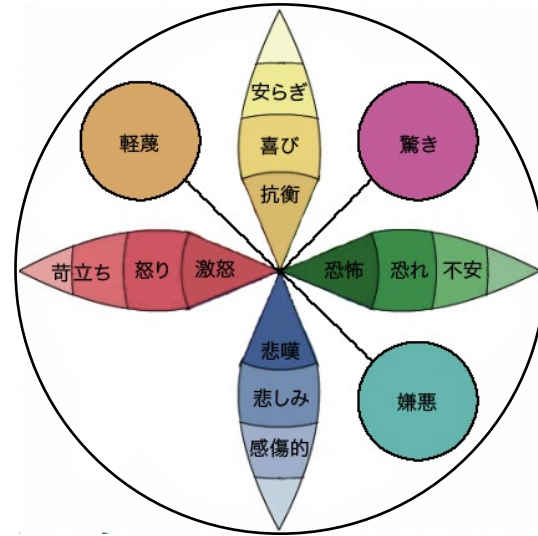
3. 感情表現と会話内容の整合・非整合性を確認しましょう。（例：楽しい内容で笑顔（整合）、悲しい内容で笑顔（非整合））

4. 該当する会話内容が重要なテーマかを以下ポイントから判断しましょう。

- 似た言葉や会話が繰り返し出てくるか
- 同じ内容について話した場合、同じ感情表現があらわれるか
- 強い感情表現の前後に重要な発言はなかったか（例：強い感情を伴う語調で何かを言ったあとに、ぼそっと本音が漏れる、など）
- 判断をするために必要な情報はそろっているか（「あれ」など抽象的な表現が多いと文脈が理解できないため）

隠れた感情

下の図（“感情の輪”）は感情の基本的な対応関係を示しています。多くの人は感情を隠すとき、「反対側」の感情が表出します。感情と会話内容が不整合の際に確認しましょう。



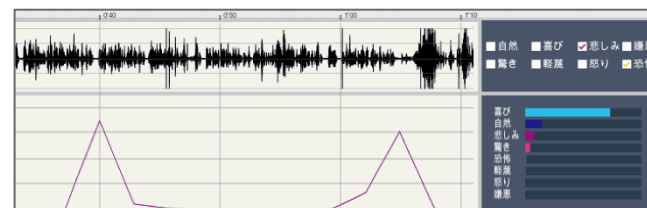
起こりやすい“見間違い”

エモーションリーダーには若干の癖があり、必ずしも感情表現ではない下記が表情として読み取られる場合があります。：

- あくびなどで、「お」の口形を続ける：「驚き」と判定
- かわいいー、など「い」の口形を続ける：「喜び」と判定
- 話を聞いていないとき全般：本人の頭の中で考えていることに関する表情を判定

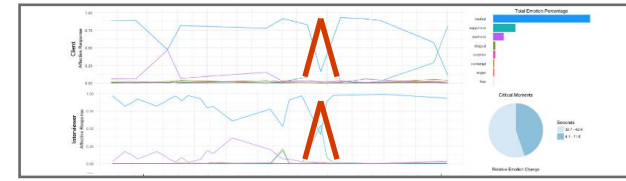
一つの感情に絞って観察する

グラフの右側のチェックボックスをオン・オフすることで、特に見たい感情に着目して観察することができます

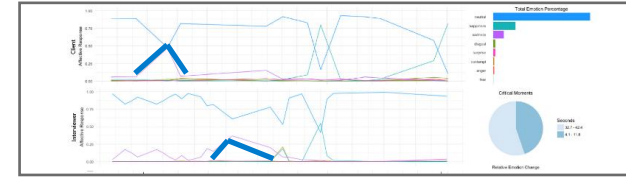


感情読み取りのコツ

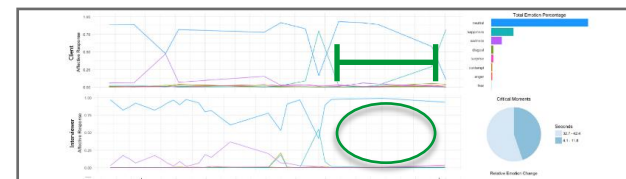
2つのグラフを比較する際の着目点



ミラリング: 同じ感情が同じタイミングで表出すること。「空気」を読んでいるもしくは感情の「伝染」

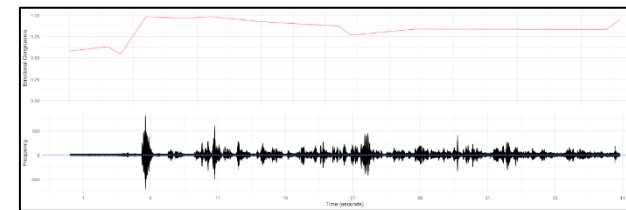


コンベイング: 同じ感情が若干の遅れを伴って他者に反映されること。「聞いている」「感情移入」

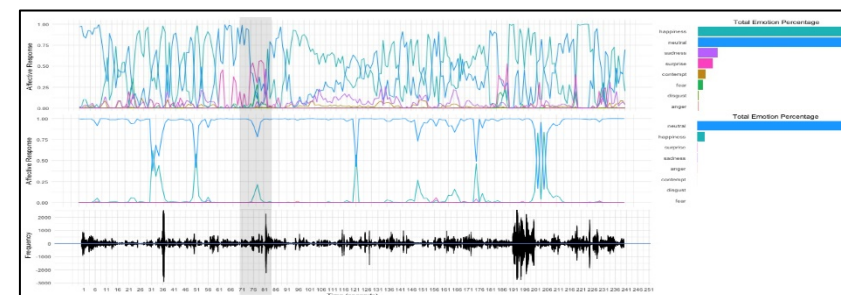


リスニングの質: 聞き手の感情表現（もしくはその欠如）は話しての話す意欲や内容にも影響を与えている可能性がある

グループのグラフを比較する際の着目点



- まずは大局的な節目を観察するために、「共感グラフ」を見ましょう。その中で変化が大きい箇所を深堀りし、個別の方のグラフを見に行きましょう



- 全体の共感度の変化が大きい箇所と関係して、個々がどういう文脈で感情の変化を起こしているのかを、着目する個人を変えながら何度も聞きましょう

解釈の進め方について

- いきなり複雑な仮説を立てるのではなく、まずはシンプルな解釈からスタートしましょう（例：笑顔はうれしいことのあらわれ、とまずは素直にとらえる）
- もし、単純な解釈が文脈上矛盾をきたす場合、徐々に仮説の複雑性を上げていくように留意しましょう（例：笑顔は実は、悲しみを隠すためだった）
- 一度結論に達しても他の可能性がないか再度確認しましょう
- データそのものや解釈には常に不確実性が伴うことを理解しましょう